



自動車産業と金融機関による カーボンニュートラルサポート連絡会 (発足以降の取組み等)

令和 5 年 4 月

財務省 東海財務局

1. 本資料に関する問い合わせは下記へお願いします。

財務省 東海財務局 金融調整官

TEL(052)951-1863 (ダイヤルイン)

2. 本資料は下記ホームページでもご覧頂けます。

<https://lfb.mof.go.jp/tokai/>

自動車産業と金融機関によるカーボンニュートラルサポート連絡会

東海地域は我が国における自動車産業の集積地。カーボンニュートラル（CN）対応のため、①プロダクト（EV化）、②生産プロセス（CO2排出量削減）の両面で大きな転換・変革が求められており、これは我が国経済の持続的成長の観点からも最重要課題の一つ。

こうした中、自動車産業のCN対応がサプライチェーン全体として円滑かつ迅速に進むよう、自動車産業と金融機関の情報共有の場として標記連絡会を発足（R4.6.8、第1回を開催）。



自動車産業と金融機関によるカーボンニュートラルサポート連絡会

自動車産業のCN対応がサプライチェーン全体として円滑かつ迅速に進むよう、自動車産業と金融機関の情報共有の場として発足（R4.6）。

<本連絡会の様子>



<参加機関の内訳（第3回時点（R5.2））>

合計	自動車産業		金融機関			関係機関等 (主催者含)
	OEM (トヨタ自動車)	大手Tier1 サプライヤー (アイシン、デンソー)	主要行等	地域銀行	信用金庫等	
63	1	2	5	11	36	8

第1回（令和4年6月8日）

- 本連絡会発足の趣旨説明、OEM・上位サプライヤー、金融機関から見た中小サプライヤーへのCN対応等に関する説明（現状・課題等）。
- 対面（会場）出席者：OEM・上位サプライヤー（本部長・取締役）、主要行、一部の地域銀行及び信用金庫（中部駐在トップ・頭取・理事長）、関係機関等（中部経済産業局長、日本銀行名古屋支店長）

第2回（令和4年9月29日）

- 第1回の議論を踏まえ、まずは「**製造現場（生産プロセス）におけるCO₂等の排出量削減への対応**」が重要と判断し、主要テーマに設定。
- 事前に、参加金融機関を対象としたアンケート調査（CN推進に関する好事例や課題、OEM等への要望等）を実施し、その結果を共有。
- 複数の金融機関から、把握している取引先の好事例や課題、OEM・上位サプライヤーへの意見要望を公表後、意見交換。

第3回（令和5年2月28日）

- 前回に引き続き、「製造現場におけるCO₂等の排出量削減への対応」を主要テーマに設定。
- OEM・上位サプライヤーから、足下の状況（「見える化」、「減らす」活動等）や今後の動き等を情報提供。
- Tier2サプライヤーから、CN対応に向けた現状の取組み等を発表。

自動車産業と金融機関によるカーボンニュートラルサポート連絡会（現状の課題等）

【製造現場におけるCO₂等の排出量削減への対応】

本連絡会を通じて見えてきた課題や意見・要望

課題

特にサプライチェーンの上流層であるTier3以下の層の対応が十分に進んでいない状況が認められ、**同層への支援が重要**

※ 参加金融機関対象の事前アンケート等より

要因

同層における
意識浸透の遅れ、経営資源の不足 など

意見・要望

中堅・中小サプライヤーからの声※として、
「測定ルールや方法の共通化」、「方針やノウハウ・取組事例等の共有」 など

金融機関 の取組み事例

【積極的な情報発信（セミナー開催等）】

- ・ セミナーを開催し取引先への啓発と人材育成を支援（地銀・信金）

【優遇商品等の提供／補助金等の案内】

- ・ サステナビリティに向けた取組みの達成状況に応じて金利優遇等のインセンティブを付与するサステナビリティ・リンク・ローン（SLL）により、意識啓発及び取組み支援を行う（地銀）

【提携事業者等（人材派遣など）の紹介】

- ・ 公的支援機関との連携による人材派遣等の活用（信金）

【金融機関の支援態勢強化】

- ・ CN専担部署を設置し、取引先支援や職員教育を行う（地銀・信金）

OEM・大手Tier1サプライヤー の取組み事例

【測定ルール共通化等】

- ・ 自動車業界団体内でのOEM間の**測定ルール共通化**の取組み。
- ・ 上流となるサプライヤーでの排出量測定を促すため、**簡易なエクセル計算ツールを作成して展開**、CNの啓発を図る。

【ノウハウ等の共有】

- ・ 個社で取り組めないCN対応に関する課題・要望を解決するため、**大手Tier1役員がTier2トップと意見交換会**を開始（R4.10～）。
- ・ **サプライヤーとの共有HP**上にて、各テーマ（例：アルミ鋳造の開発・省エネ事例）ごとの講演ウェビナーを掲載。

意見・要望を踏まえた 連絡会の企画等への反映

- ・ 本連絡会は、多くの金融機関にとって、OEMや大手Tier1サプライヤーから**直接情報を得る貴重な機会**。
OEM等から、**足下の状況や今後の展開、仕入先等の対応支援において金融機関に期待する役割等の情報**を得ることで、金融機関自身の意識醸成やサプライヤー支援の加速を期待。
- ・ Tier3にとって最も関わりのある（影響を受ける）先は直接の納入先であるTier2。
このため、**CNの取組みを進めているTier2企業を招き、同社のCNの取組みや関係グループ内企業の現状等**を紹介。

自動車産業と金融機関によるカーボンニュートラルサポート連絡会（今後の展開等）

第3回連絡会

OEM・大手Tier1サプライヤーからの報告・要望

- CN貢献のためには、いずれは原価アップを伴う低減アイテム（設備投資等）も必要になるが、まずは、自社の利益にもつながる低減アイテム（無駄の削減等）の積上げ等を仕入先とともに進めていく。
- 金融機関には、CN関係の補助金制度等について、仕入先に対して随時ご紹介いただき、手続きや申請のサポートをいただくとありがたい。

Tier2サプライヤーの報告

- 既存の取組み（「安全環境」・「品質向上」・「生産性」・「原価低減」）を推進する中で、これをCO₂排出量削減目標に置き換え、削減を図っている。エアリークの改善（ex.コンプレッサーの吐出圧力見直し）や、積載効率向上によるトラックの減便等はその一例。
- 自社工場のエネルギー使用量を踏まえCNのロードマップを作成。2030年までに現在思いついている省エネ施策等を粛々と取り組み、年間2.5%以上削減していきたい。

まとめ

- 自動車産業界の報告等を踏まえると、**自社のコスト削減にも資する足元できる取組み**から始めており、CO₂等の排出量削減は、必ずしも投資を伴う対応だけでなく、これまでも継続的に実施してきた**日々の改善活動の積み重ね**が生産性向上、ひいてはCO₂等の削減にも繋がる。
- 金融機関は、取引先における**地道な改善活動の重要性に十分留意**しつつ、今後、サプライヤーのCO₂等排出量の測定（見える化）・削減策の実行に伴い、必要に応じて設備投資等の可能性も考慮の下、**取引先の状況に応じて、資金繰り支援や経営改善支援等を的確に行っていくことが重要。**

今後の展開

引き続き、Tier3以下の層へCNの対応を促す働きかけが重要であり、関係機関と連携の下、参加機関のニーズ等を踏まえながら本連絡会を定期的で開催し、CN対応の**現状把握**に努め、金融機関による**中堅・中小サプライヤーに対する本業支援を含めた金融仲介機能の発揮**を後押ししていきたい。

<予定している取組み>

- ☑ 自動車産業と金融機関の**情報共有**の場としての連絡会を引き続き**定期的**に開催（連絡会のテーマや開催方法の決定にあたっては、事前アンケート等により参加機関のニーズを把握）
- ☑ 金融機関に対し、取引先（サプライヤー）のCNの取組状況に関する**アンケートを実施**（R5.8頃予定）し、進捗状況等を把握・共有
- ☑ 関係機関と連携・協働し、金融機関や地域のサプライヤーの利用に資するCN関係の**補助金制度等の支援メニュー**を情報発信